

生産性を上げよう



木村副代表

昨今、政府が進めている「働き方改革」に絡んで生産性というテーマが大きく取り上げられています。それとグループ各社の来年度新卒採用者数が大幅に不足しており、人手不足が顕著になっており、今後益々深刻化してきます。

この人手不足を解消する効果的な解決策は生産性向上であります。生産性向上とは付加価値^(*)を上げることであり、付加価値を上げることは生産性向上であるべきです。製造業を主体としたグループとしては、仕入金額はざっくりいって原材料費、外注加工費等外部よりの購入費です。付加価値を上げることは、一つには総労働時間の短縮によることで出来ません。

(*)
付加価値 = 売上高 - 仕入額

(*)
時間当たりの付加価値 (生産性、効率性)
= $\frac{\text{付加価値額}}{\text{総労働時間数}}$

付加価値を上げるには安易に労働時間(残業含む)を増やすことで達成させるのではなく、1時間当たりの付加価値^(*)を上げることが生産性向上であるべきです。製造業を主体としたグループとしては、仕入金額はざっくりいって原材料費、外注加工費等外部よりの購入費です。付加価値を上げることは、一つには総労働時間の短縮によることで出来ません。

二つ目は仕入れ単価、仕入数量を削減すること、三つ目は売上高を増やすことであり販売数量あるいは販売単価を引き上げる事でありますが、販売数量を増やすと仕事量が増えるため労働時間が増えてしまいます。仕入数量及び仕入単価の削減には改善等により既に絶えず継続的に実行してきており、限界があります。生産性向上に効果的なのは改善改革等による販売単価の引き上げであり値上げであります。これには創意工夫でどんな伸ばしていく事が出来ます。ではどうすれば良いのだろうか。顧客第一であり顧客の要求に対して深く洞察し、どうすれば顧客にとって価値が上がるかを考えなければなりません。今持っている技術力、開発力を転回し、新しい技術開発により、より良い品質、より良い使い勝手、より良い価格の追及に係っております。営業、技術、製造が一体となり顧客の懐に飛び込んで知恵を絞り、

分社グループ会報
第53号



2017年(平成29年)
12月6日 水曜日発行

《発行元》
分社理念研究所 事務局
〒141-0031
東京都品川区西五反田8丁目
11番21号五反田TRビル3階
TEL 03-5496-1810
FAX 03-5496-1881
<http://www.bunshagroup.com/>

就任挨拶

株式会社
幸大ハイテック
株式会社
コダビット



この度、代表取締役社長に就任いたしました藤野でございます。コミュニケーションでチームワークを築き、スピード感を持って変化に向けて挑戦する「明るい会社」づくりに全力で取り組んでまいります。皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

大変な努力と時間と忍耐により成し遂げなければなりません。我が分社グループは酒井式たばこ細刻機の発明を源流とした太陽工業(株)が今年70周年を迎えました。その間には幾多の山あり谷ありの試練があり近年でもリーマンショック、東日本大震災等々困難を乗り越えグループとして発展してきた遺伝子が脈々と受け継がれ

成長してきました。生産性を高め付加価値を増やすことにより、労働時間の短縮、待遇改善に繋がり、人材投資、開発投資、設備投資等将来に向かっていく事が出来ます。寒さが身に凍みる今日この頃、どうか皆様一人ひとりが健康であり、グループ各社も健康でより良い体力作りをしようではありませんか。

グループ会社を訪ねて…

第四回

大金電子工業株式会社
DAIKIN DENSHI KOGYO Co., Ltd.

本間社長に聞く



—現在の事業環境をどのように感じていますか—

全体的には株価の高騰で示されるように業界は安定した事業環境だと感じます。個別には半導体関連など分野によってはビジネスチャンスが拡大すると感じます。当社の場合はお客様の事業分野によって変動が多くあります。それは想定内であったり、見通しが大きく外れるケースもあります。原因は景気や社会情勢をはじめ、お客様自体の経営環境や市場環境の変化に左右される面が大きいと考えますが、そのような事業環境の中でも、企業体質を高め、持続的に事業を運営していくことが経営課題であると考えております。

—御社の事業内容は—

当社は基板実装、完成装置、設計開発の3事業を主体としております。基板実装は文字通りプリント基板に電子部品を装着するのですが、当社で実装した基板は電車の車両や駅、電力、大規模プラントなど社会インフラを中心としたものに多く使用されています。お客様によっては海外で製造しているところもありますが、まだまだ国内指向のところが多いと思います。

完成装置については、当社で組み上げた完成品はお客様の検査を通らず直接エンドユーザー様の所に納品していただきます。装置を組み上げるまでには沢山の工程があるわけですが、当社では検査項目をチェックシートに書き残すと同時にカメラで撮った画像も残しています。記録はISOの規定に準じて保管していますが、今お話ししたのはほんのさわりです。検査をして、ちゃんと動いたという認定があっても、使っていく間にだんだん壊れていくケースが一番怖いんです。例えば一万台作って納めたうちの一台から使用中に異常が出た場合に、他の九九九九台は大丈夫ですかって必ず言われます。物を作っている限

りどこも同じだと思えますが、それぞれの品質的な取り決めに準じてきちんとした商品をお届けしないとイケないと思っております。

設計開発はうちの数%位のシェアですけれど、0から完成体まで全部やるケースと部分的に依頼されるケースという異なるパターンがあります。

お客様にすべて委譲した作り方ですと我々の開発思考などが全く入らないことになってしまいますし、特性も専門性もなくなってしまう。昔からやっている大束結束機（お札を紙のテープで束ねる機械）は、紙屋さんとも随分意見交換を繰り返してきましたが、材質に左右されない構造や仕組みを作っていくのが今後の課題と開発の進歩だと思っております。



また銀行の通帳プリンターも開発から完成体まで作っています。医療系、環境関連、様々な分野に携わっております。

—今後の事業と将来のビジョンをお聞かせください—

外的要因に大きく影響を受けない事業構造の構築を重要方針に掲げ、その為の受注体制と収益体制の強化を目指しております。

受注面では、現在60近くのメーカーとの取引口座があります。1社あたりの占有率を可能な限り抑え、受注の増減による影響を緩和できる仕組みづくりを目指します。収益面では、多くの顧客を獲得し、きめ細かく対応することによって総合的なサービスを提



グループ会社を訪ねて...

第四回



大金電子工業株式会社
DAIKIN DENSHI KOGYO Co., Ltd.

供できる企業を目指します。
基板実装、完成装置、設計開発の3事業を主体としてこれまで以上に業界での専門性と地位を高めていきます。

—今後挑戦したい新事業などはありませんか

過去に当社に事業を売却したいという話が何度もありましたが、結果として買わなくて良かったというケースが殆どです。それだけ新規事業というのはリスクが高く難しいことだと考えます。新規事業に後ろ向きということではありませんが、現在の目的は、新規事業創出ではなく新規顧客獲得が第一優先です。

—御社の得意技術は

基板実装は社会インフラを中心とした高品質且つ多品種少量生産技術。
完成装置はメカトロニクスを中心とした高品質且つ多品種少量生産技術。
設計開発はメカトロニクスを主体とした独自の設計開発技術（大束結束機・通帳プリンターなど）。

—日本のものづくりの将来についてどう思われますか

ものづくりは国内に留まらず海外に多く展開されていきますが、高品質を要する製造技術の中心は国内に留まると考えます。少子高齢化による人手不足は深刻さを増し、省力化や自動化が促進されると考えますので、将来は人とロボットの協業率が高まっていくと考えます。

—工場見学など依頼があれば見せて頂く事は可能でしょうか

お客様が競合しているケースや製品の守秘義務があり、基本的にはご案内しておりません。ホームページなどで簡単に概要を紹介する程度に留めていますが、エリアを制限してご案内するケースはあります。各担当役員経由でお問い合わせ頂ければと思います。

—社長の信条、座右の銘、趣味などをお聞かせください

信条は「誠実な対応」です。人間関係も商売も、信用を失っては途絶えてしまうと考えます。

座右の銘は「一日一笑」。毎日笑顔をやささないように努めています。

ゴルフなども大好きですが、どちらかというと鑑賞系（スポーツ・芸術・映画・旅・ドキュメント・お笑い・本・等々）のオタクです。一番は、

家族・ペット（犬・猫）と過ごす休日です。

—分社グループに望むことはありますか

経営者の育成を継続的に行っていかねければならないと感じております。
実際になつてみないとわからない実務能力や経験値を高める機会が課題だと考えております。

若手社員

インタビュー



平成24年4月に入社された吉田謙介さん（写真左）と矢作絵美さん（写真右）にお話を伺いました。

■どのようなお仕事をされていますか。

吉田：経営管理部に所属しております。ましては経理、総務を担当しております。

矢作：製造部に所属しております。ましては装置組立、配線を担当しております。

■会社にはどのようなイメージをお持ちですか。

吉田：アットホームな感じですね。仲が良いです。

矢作：困ったことがあってもすぐに相談できます。

■お休みの日はどんな風に過ごされていますか。

吉田：共通の趣味を持つ友人達と過ごすことが多いです。

矢作：温泉に行くのが趣味です。

■会社に見学することなどはありますか。

吉田：今の部署に配属されて1年あまりになりますが、なかなか上司の期待に応えられていないので、引き続きご指導をお願いしたいと思っております。

矢作：新入社員が入ってきたらいいなあと思っています。

◆◆お二人ともお忙しい所、ご協力頂き本当にありがとうございます。◆◆

展示会出展



平成29年11月15日（水）～17日（金）の3日間、東京ビッグサイトで開催された産業交流展2017に(株)サテリットが出展しました。ブース内にはサテリットが得意とする金属超精密加工部品に加え、3Dプリンターで作成した試作模型や遊び心満載の展示品が数多く展示され来場者の関心を集めていました。
★(株)サテリット <http://www.satellyt.co.jp/>

分社グループ社長会開催



平成29年9月14日（木）コトヤード・マリオット銀座東武ホテルに於いて社長会が開催されました。
篠崎会長から開催の挨拶が述べられた後、(株)幸大ハイテック・(株)コダビット代表取締役社長根本武夫氏より臨時株主総会のご案内と退任のご挨拶がありました。また、事務局から月次業績推移が報告され、各社から上期の業績と下期の計画等が報告されました。
最後に酒井代表より挨拶があり社長会は終了しました。

品質管理・環境部会開催



平成29年10月27日（金）大金電子工業株式会社本社工場（山形県尾花沢市）において品質管理・環境部会が開催されました（以下大金電子工業）。
今回は大金電子工業の通帳プリンター量産を事例に工場見学と品質管理への取組みを研修しました。
この日の参加者はグループ5社より14名。大石田駅に集合した参加者は、出迎えて下さった大金電子工業の車両に分乗し銀山温泉で昼食を取った後工場へ向かいました。

今回大金電子工業が事例として取り上げた通帳プリンターの生産は、同社がこれまで積み重ねてきた実績と経験を上回る納期と数量を実現しなければならず、コストや品質面においても高い水準が要求されるものでした。従来の生産方式では対応しきれない部分も多く、安定した生産台数（月1000台以上）を確保するために新たなシステム



部会は分社理念研究所木村副代表の挨拶に続いて座長の本間社長より開催の挨拶とスケジュールが述べられ、大金電子工業の会社説明から始まりました。会社説明を受けた後は実際に工場内を見学し事例研修へと移りました。



（大金電子工業様、ご参加者各位、有難うございました）

開発やラインの整備・構築が急ピッチで進められたことが報告されました。生産工程においては工程監視のIT化を強化し、エビデンスのペーパレス化やカメラ撮影による重要箇所の画像検査など、進捗度合いを細かく一元管理しながら検査によって作業が中断されないシステムが構築され、600点以上（300種類を超える）の全部品を定量配膳し、余剰部品があつた場合にはすぐにラインを止めて対象ユニットの見直しを行うなど作業漏れを次工程に送らない態勢作りに注力されています。また品質リスクに対する認識教育にも力を入れ、一丸となった取組みが報告されました。最後に発生不具合事象とその改善事例が紹介され、質疑応答の後終了致しました。